

8回連続で割高入札

水道メーター

茨木 いつも単価1万円

大阪府茨木市で一九九四―九六年度の間にあった水道メーター納入業者の入札で、落札業者は変わっていないにもかかわらず、単価が八回連続一萬円で落札されていたことが分かった。東京都発注の水道メーター納入をめぐる談合事件が発覚した後の今年度の入札では、落札単価は四分の一にまで下がり、年間の購入費は四千万円近く減るとい

ろ。市水道部は「客観的にみて、談合の疑惑は否めない」と、談合があった可能性が極めて高いという見方をしている。

一萬円で落札されていたのは、家庭で最も多く設置され、市内のメーターの六割以上を占める口径二十ミリのもの。九四年度三回、九五年度四回、九六年度一回

の計八回がすべて同じ単価だった。九四年度のほかの三回の入札も、九千九百円前後だった。一回につき三百個から四百個程度発注され、その総額で落札されている。

次に発注数の多い口径二十五ミリの単価も、九四、九五年度の八回がすべて同じ二万五五百円で、九六年度も二万三百円から二万四五百円程度だった。

一方、今年七月と十月に

あった入札では、二十ミリの単価が二千七百元、二十三百五十円と約四分の一に急落。二十五ミリの十月の入札も単価二千五百円にまで落ちている。

同市の水道メーター入札には、十一社が参加する指名競争入札を実施してきた。うち八社が東京都の談

合問題で二月に公正取引委員会から刑事告発を受けた業者だった。

同市の新品メーターの購入は、毎年度ごとに千百個から千五百個程度で、修繕分を含め五千万円から六千万円支出されてきた。

入札問題を調査している山下慶喜市議(新社会)

は、今年度の購入費は最終的に四千万円近く浮くと試算、九四―九六年度の三年間だけで計一億円近くも高く購入していたとみる。

「談合がいつから始まったかは不明だが、今後復活する可能性があり、市はきちんとチェックすべきだ」と指摘している。

市水道部の木村修部長は「総額で入札しており、単価をチェックできなかったことを反省している。今後は適正な入札に努めたい」と話している。